

平成 28 年度 研修棟 2 階（208 教室，209 教室，210 教室）の アクティブ・ラーニング整備事業について

★文部科学省より、平成 28 年度 私立大学等教育研究活性化設備整備事業
タイプ1「教育の質的転換」に採択され、補助金交付決定通知が届きました★

1. (趣旨・目的)

「ICT 機器導入等によりアクティブ・ラーニングをいっそう推進し、近い将来の
ラーニング・コモンズの展開を見据えて、建学の精神に 基づいた質の高い幼児教育者
養成を図る」

本学は建学の精神「気品・知性・奉仕」の理念に基づいた保育者養成をおこなっている。
学生は建学の精神を理解し、これに基づいた行動により、より良い保育者を目指し、日々
懸命に取り組んでいる。今回の申請は、従前より行っているロールプレイやグループ
ワークによる学習活動と振り返りによる学生主体の授業、そして授業後のフィードバック
テストなどによる教師の迅速なフィードバックなどの双方向授業を、さらに ICT 機器
などの設備充実により、学習の PDCA サイクルの授業を確立・整備したいためである。
これにより、学生の学びに対する興味と達成感を呼び起こし、ラーニング・コモンズの
実効を見据え学習意欲と効果の向上を目指している。この結果、本学の建学の精神「気品・
知性・奉仕」を具現化できる質の高い保育者の養成をさらに充実させたいと考えている。

この主なねらいは次のとおりである。

- ① ロールプレイなどをカメラで撮影し、クリッカー利用によるチェックなど迅速な
学習の PDCA サイクルで保育技術の向上
- ② PC 利用により教科書や話し合いでの疑問や不確実な事項をその場で確認する学生
自身による保育知識や技術の向上
- ③ 学生同士の相互教授や討議、教員と学生との意見交換などアクティブ・ラーニング
方式による学習効果の向上

1) 核家族化が進む現代日本において、母親の「子育て」に関する知識や技術不足に起因
する「育児不安」が問題となっている。本学も「子ども支援センター」を設け、地域の
保育所などに出向くなどで、これらの母親の悩みなどへのアドバイスをを行っている。この
母親の「育児不安」の解消は保育所をはじめとする保育施設に委ねられているのが現状で
ある。このため育児の経験のない保育士にもこれらの悩みに対応できるだけの知識と
技術が求められている。そのため、子育て経験が皆無といえる学生が保育所や幼稚園
などに勤務した際、いきなりこの重要な課題に直面するのである。このような学生たちの
保育士としての就業への不安をなくし、専門職として自信をもって保護者に対すること
のできる保育知識や技術を獲得させるためにも、教室内で学ぶ理論とともに、子どもの
行動を観察することや保育ロールプレイを行い、学生同士で検証しあうことなどによる
PDCA サイクルでの保育技術の習得・向上が重要である。この学習における PDCA

サイクルを実施することで、より立体的で学びが生まれ、学習効果が見込める授業を展開したいと強く望んでいる。そのためにも、ビデオカメラやクリッカーなどの機器の整備が必要と考えている。

2) 上に述べたように、保育者にとって子どもの発達援助とともに、あるいはそれ以上に重要といわれるのが保護者に対する支援である。核家族化の進行で「子育て」環境が変化し、家庭の保育・教育力が低下した現代、育児知識も技術もないままに孤立しつつある保護者支援は保育施設で働く保育者にとって、これまで以上に重要な業務のひとつとなっている。

この保護者支援や対応のために、短大など養成校を卒業したばかりの経験の浅い保育者にも専門職としての十分な知識や技術が求められている。この知識や技術獲得のためには体験学習が重要であり、「その場ですぐに調べて知識を得る」「その場ですぐに模擬体験をする」ことが重要であり、学習上も有効だと考えている。ロールプレイで学生同士が確かめ合い、学びあう、この学習習慣を身につけさせるために教室内には「カメラ」「映像処理装置」「iPad」のような ICT 機器を整備し、利用させて知識と技術の獲得を図るとともに、就職後もこのような知識と技術の習得方法と意識を継続して保持させたいと考えている。

このように学生の知識・技術獲得への欲求を喚起させ、達成感を持たせ、満足させることにより、学習意欲を向上させ、学習効果を高めるためにも「すぐに、その場で確認を」の行動がとれるような学習環境を構築したいと考えている。

3) 以上述べてきた保育知識と技術の修得の後、これらを駆使し、質の高い保育や保護者支援を行うためには、保護者や同僚・上司そして地域社会の人々などとの良好な人間関係を構築できる能力や技術が重要となってくる。しかし、現代の若者は「Face to Face のコミュニケーション能力」が低下していると多くの調査で報告されている。それゆえ、保護者をはじめ周囲の人々から信頼される保育者になるためには、コミュニケーション能力を高め、状況や状態を把握し、子どもや保護者・同僚など他者と良好な人間関係を築くことのできる豊かな人間性をもった保育者を養成するのが本学の使命であると考えている。このために、教室内外で獲得する知識や技術を駆使し、学生の事前・事後学習を前提としたグループワークを中心にアクティブ・ラーニングを採り入れ、他者の意見や考えを真摯に聴きとり、自らの考えも的確に述べるなど TPO に応じたアサーティブ・コミュニケーションがとれる、より質の高い保育者養成をよりいっそう押し進めたいと考えている。このグループワークなど意見交換や討論形式の学習をより効果的にするためにも教室環境をグループワークの学習に適したように整備することが重要と考えている。

つまり、これら学習環境をアクティブ・ラーニングに適したように整備することにより、事前・事後の学習に基づいた学生同士の学びあいをいっそう活発なものとし、能動的学習をさらに効果的なものにすることができると考えている。このようにして学びへの興味を抱いて取り組んでいる学生の学びへの意欲をさらふ強いものとするためには、教師が学生に対してフィードバックを迅速に行い、学生に知識や技術を定着させることが重要である。このためにも映像機器やクリッカー等 ICT 機器利用は不可欠なものであると

考える。

2. (期待される教育成果)

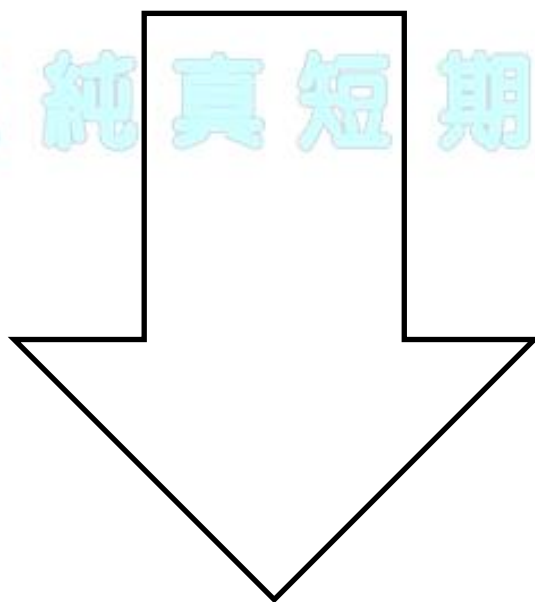
1) ICT 機器の導入により、教室において PDCA サイクルの学習で体験的に保育を理解し、知識や技術を深めるとともに、自らの保育行動を相互に確認しあう相互学習の結果、実践的な保育知識と技術を備えた質の高い保育者養成ができる。

2) 知識や情報をその場で確認によって、学習意欲に刺激を与えられ、学ぶことへの喜びを覚え、学生の知識獲得への積極的な態度への変容を促すとともに、学習効果を高めることができる。その結果、学生時代に限らず職場に入ってから常知識と技術の獲得への意欲と方法を兼ね備えた質の高い保育者養成ができる。

3) 学生自らの学習において獲得した知識や技術をもとに、グループワークなどの協働学習を通して、他者との良好な関係づくりの重要性や方法を認識し、獲得するとともに、コミュニケーション能力の高い人間性豊かな保育者を養成することができる。

このような学習環境で、学生は授業に興味を抱き、自ら進んで学習に取り組み、その結果を協働学習で相互に披露し、迅速なフィードバックにより自らの知識や技術を確かなものにすることができる。その結果、本学の建学の精神「気品・知性・奉仕」を体現できる質の高い保育者となることが可能となる。

埼玉純真短期大学



○補助事業の実績

今年度も補助事業による整備の結果、従前より行ってきた学生主体の双方向型授業を一層効果的なものとする事ができるようになった。この整備の結果、学生の学修意欲向上とその結果とも言える「質の高い幼児教育者」養成のための学習環境が整備されたことになる。

今回対象の3教室にはAV装置とテレビやカメラを配備し、学生のロールプレイやプレゼンテーションなども収録した画像をその場でフィードバックすることができ、観察だけでなく、学生同士がお互いにすぐさま検証しあうことで保育技術の向上がこれまで以上に可能となった。つまり事前学習から実技演習とその検証、そして改善といった一連の流れによるアクティブ・ラーニングにおける学習PDCAをスムーズに行うことにより立体的な授業展開が可能となった。その結果、これまで以上に学生の授業への取り組み意欲を高め、学習効果の向上が見込めるのである。机配置は従来の固定式の机や椅子から個人用の机と椅子を全て可動式とし、グループ学習がそれぞれの場面に合わせて人数を変えることもできるようにした。また、ICT機器の効果的利用で、教員が授業用に作成したコンテンツを効果的に活用し、学生の学修意欲に刺激を与え、保育の知識・技術の獲得への能動的な学修態度形成に大変役立っている。さらに、昨年度導入したiPadを利用と強く関連させることにより、学生の調べ学習と知識習得の定着が一層進み、学生が自ら獲得した知識や技術をもとに学生主体のアクティブな学習を通して、コミュニケーション能力も高まり、他者との関わりの重要性を理解することができる。この結果、本学の建学の精神「気品・知性・奉仕」を具現化できる人間性豊かな幼児教育者養成がこれまで以上に可能となった。

○補助事業に係る具体的な成果

本補助事業の目的は、1) 保育者養成における学生主体の授業をより効果的・実践的授業へと改善を図ること、2) アクティブ・ラーニングの一層の推進により、学生自らが自主的・体験的な学習を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、他人と協調・協働できる人間性豊かな人材養成を図ること、3) ICT機器を利用したアクティブ・ラーニングを通して、学生の学びへの意欲を高めるとともに、本学の建学の精神「気品・知性・奉仕」と教育目標に基づいた質の高い知識や技術を備えた有能な保育者養成を行うことである。

今回のこの補助事業の目的に対する具体的な成果としては、まず授業担当教員が前年度以上に積極的にアクティブ・ラーニングに備えた教材作りなどの授業準備をし、学生主体の効果的授業の更なる改善へ積極的に取り組んでいることがあげられる。その結果、授業を行った教員は早くもその改善結果の手ごたえを感じている。また、授業を体験した学生にとっては、高校までにはあまり体験したことのない

ICT機器利用の授業形態でもあり、この授業方法を新鮮に受け止め、興味をいだいて授業に臨んでいる。その結果、授業においては、学生同士の積極的な意見交換や共同作業を通してのコミュニケーションが活発化するとともに、ICT機器を利用しての自主的学習活動への取り組みがみられる。さらに、教員が学生に対して、授業内容の理解度を確認し、学生が理解しやすいようにと説明用資料の作成や提示するとともに、フィードバックも適切におこなうことにより、これまで以上に学習効果も高められる質の高いアクティブな授業が行えるようになった。この補助事業における成果の大きなものとしては、学習活動の延長線上で、「気品・知性・奉仕」の本学の建学の精神が学生に浸透し、教育目標でもある人間性豊かな保育者養成を確実なものとしている。

平成28年度私立大学等教育研究活性化設備整備費補助事業
タイプ1「教育の質的転換」納入及び実施状況

学校法人純真学園 埼玉純真短期大学

